



発行  
天理教本愛大教会

〒453-0821  
名古屋市中村区大宮町 1-60  
TEL (052) 461-4326  
MAIL mail@hon-ai.org  
〒632-0071  
奈良県天理市田井庄町 19-1  
TEL (0743) 62-0378  
編集責任 広 報 部

大教会の秋季大祭が10月13日に執行され、神殿講話に本部長・永尾洋夫先生が登壇された。以下、要旨。

**立教183年秋季大祭講話要旨**



**本部長**

**永尾 洋夫 先生**

私は現在、修養科で御用を務めさせていただいています。修養科は来年開設80周年を迎えます。この旬に向け、内容充実に取り組み始めたその矢先、新型コロナウイルス感染拡大という節をお見せいただいたのです。

修養科80年の歴史の中で初めて、今年5月と6月の

募集を取り止めることになりました。その後、緊急事態宣言が解除され、7月より修養科生の募集を再開しました。感染の危険性はあっても、信仰生活を止めるわけにはいかないと強く心に思いました。しかしその決意を打ち砕く出来事がすぐに起こりました。ある話所の勤務者家

**活動目標**

喜びの旬  
おたすけの日々  
楽しみの道

せてしまうのではないかと心配しました。

しかし修養科生たちは2週間の話所持機中も、一切の不足をすることなく、罹患者の身上平癒をただひたすらに願ひ、理づくりのひのきしんや、十二下りのお願ひづとめを進んでつとめてくださっていると聞きました。全員が陰性というご守護を頂けたのは、この真実が親神様に届いたからだと思います。

おふでさきには感染症、特に「<sup>ほうそう</sup>瘡」について、私たち人間が人をたすける心にその心を入れ替えるならばご守護くださるとあります。

世界中の人間が、人をたすける心にその心を入れ替えて、万事互いにたすけ合つて暮らすことが親神様の望みです。親神様はその互いたすけ合いの心を受け取つて、守護するとお約束

(2面に続く)

**12月のこよみ**

入 社 祭

1日 午前10時  
祭典後、教員長連絡会

よふき会例会

2日 午前10時

月 次 祭

13日 午前10時

布教実修所

14日 午前10時

むつみ会例会

16日 午前10時

女子青年例会

20日 午前9時50分

婦人会 例会

20日 午前10時

こはる会例会

20日 午前10時

本 部 月 次 祭

26日 午前9時

青年会 例会

27日 午前10時

大 祓 式

31日 夕つとめ後

くださいます。人をたすける心は、本愛大教会につながる皆さんの方針である、「おたすけの日々」にも相通することです。

また、おふでさきに、当時のコレラの流行は親神様の残念の表れであり、それぞれの心を陽気づくめに入れ替えなければならぬとも仰せくだされています。そして、陽気づくめの心とは「楽しみの道」にも通じていると申せましょう。

ですから、皆さん方が掲げておられるスローガンは、このコロナ禍にあつて、親神様の思召になつたものであるなど、大教会長様からこのスローガンを聞かせていただいた時にそう思いました。

「陽気づくめ」とは、つとめによつてもたらされるものであると教えていただいています。今の世の中で、まず私たちが自ら人をたすける心、そして陽気づくめ

の心にわが心を入れ替える努力をすることが大切です。日々々々のおつとめにしつかり心を込めて、この事態の治まりを共に祈願させていただきますよう。

### ■身近な人へのおたすけ

今おられる修養科生に、祖父母から「必ず運命が変わるから、私たちが死ぬ前に修養科へ入つてほしい」と懇願されておちばへ帰つた男性がいます。ご両親には信仰がなく、教えを聞く機会もなかつたそうですが、修養科での日々を通して「これからの人生に天理教の教えは必ず生きてくる」と思えるようになったそうです。

また、人生に行き詰まり、家族の勧めで修養科を志願された方もおられます。その方は「天理教の教えと日常生活は乖離していると思つていただけど、修養科に来て、普段の暮らしの中

で教えがどう生きるのか分かつてきた」と話しておられました。今では、これらの仕事に教えをどう生かして通るかを考えながら、地元に戻る日を楽しみにしているといひます。

逸話篇などを見ても、家族や親族からにいがかせるケースは少なくありません。あるいは同村の何某からというように、身近な人からにいがかかっていることが多いのです。

親神様のご守護について最初に聞かせてもらう相手として一番理想的なのは、私は家族だと思ひます。しかし、一生懸命道を通つておられる家族でも、親から面と向かつて親神様のご守護や、そのご守護のおかげで今結構に生かされているのだと教わる機会がない家庭は、案外少ないのではないでしようか。

ある教会の前会長さんは、孫にこんな話をするそ

うです。「自分の力で病気や怪我をしないようにできるか?」。そう尋ねると孫は「そんなことできるわけない」と答える。そこですかさず「そうだろう。自分では絶対できない。それができるのは親神様なんだ。親神様がいつも守つてくださっている。だから朝晩しつかりとお礼を申し上げて、またお守りいただけるようにお願いしないと」。

そんな会話を続けていると、だんだん孫たちのおつとめに対する態度が変わつてきたとも仰つていました。何気ない会話の中で、親神様にお守りいただいていることを伝える。それから、そのことに感謝する心、そしておつとめに心をこめる土台づくりを促しておられるように感じました。

### ■おちばはたすかるところ

身近な人に教えを伝えるには、やはり親神様から頂

戴しているご守護、そのご恩を伝えるということに尽きます。純粹な信仰とは感謝の心から始まるものであつて、そのありがたさが分かる信仰は前向きになる。そしておつとめでご守護を頂戴できることが分かれば、それに対する真剣さも変わってくる。そうなるために、まず伝える側の私たちが、親神様から頂戴する十全の守護に感謝し、その感謝を報恩の行いにつなげる姿勢が肝要だと思います。

最近はおちばがえりをすることさえ躊躇せざるを得ませんでした。ただ、段々と規制も緩和され、おちばでは一定数の団参の受け入れも再開しております。

皆様方には「おちばはたすかるところなんだ」という固い信念をお持ちいただき、挙つておちばにお帰りくださいますことを最後にお願い申し上げます。

教理随想

言わん言えんの理を探る



人間の体、また建物の天井や床、それに衣服など、あらゆる物には表側と裏側があり、その多くは裏側に支えられることで表側が成り立っています。これと同じことが信仰を考える時にもいえるのではないのでしょうか。つまり、おたすけやひのきしんに励む行いが表側で、それを実行しようとする心が裏側です。言い換えれば、心の中にいんねん自覚や報恩の精神というエネルギーが十分に詰まっています。初めて、おたすけ、ひのきしん、おつくしという

信仰の行いとして表に現れてくるのです。したがって成人を育てるためには、まず心の中を感謝と報恩で満たすことが肝心であります。そう思うとおたすけの實行は、初代会長様が諭された「天恩天借」の教えと正に表裏一体であり、会長就任奉告祭を半年後に控えた今は、改めて初代会長様の教えを深く味わい、報恩の精神を高めることがいかに重要であるかが分かります。初代会長様に導かれた後、自らも教会を設立し、多くの部内教会を誕生させたあの先人布教師は、次のような言葉を遺しています。

「人は皆、求める心で苦勞し、求める心で罪を作る。人は求める心だけで人生を通ったならば、天恩、人恩、物恩が重なり、恩詰まりとなつて苦しむ運命となる」。人間には限りなく求める心がついています。これは人間の本能といつてもいいかもしれません。しかしその欲望のままに物やお金や人を求めていけば、必ず行き詰まりがきて人生の歯車が狂うことを、この先人は自らが二十代の時に体験しました。そしてそれを契機として生き方を百八十度転換させ、求める心から出す心へ自ら切り換えると共に、悩み苦しむ人々に教え諭して多くの人がたすかつていったのであります。

■出すことを最優先に

この世は「天の理」の世

【第 72 回】

# 人だすけの誠眞実を絞り出し 一手一つに会長就任奉告祭へ

界です。天の理によれば、入れる方と出す方では出す方が先ですから、いつも出すことを最優先に考えていければ、入る方は必ず天の理に守られる。しかし人間思案に捉われてこの順序をまちがえると、人生が順調に進まなくなり、初代会長様が終生説き続けられた「天恩天借」とはこれを意味するもので、天の理に沿わない生き方をすれば必ず天に恩が重なつて借りを作る。それが積もり重なると身上や事情で苦しむことになるという、実に奥深い信仰の悟りであります。では人生で「出す」とは何を意味するのでしょうか。それは苦しむ人のたすかりを願つて、親神様に誠眞実の心を絞り出すことです。たとえば、自分の体力を出して出して出し切るとどうなるか。自分の体に力がついてきます。形あるものは出せば無くなりますが、

力はついてくる。これと同じで、誠眞実を出せば出すほど我が身に返つてくるのが天然自然の法則です。この点をいつも我が心の中心に据えておつとめをつとめ、おさづけを取り次ぎ、周囲への声かけと人だすけに励めば、その努力を親神様は誠眞実として受け取つてくださり、蒔いた種通りに返してくださる。これが「人たすけたら我が身たすかる」と仰せになる教祖の親心であります。さあ今、一人一人が頂戴しているご守護をしっかりと味わい、喜びと感謝の精神を我が心に満たしましょう。そして報恩の心を人だすけの行動に具体的に現しましょう。これが奉告祭を迎える本愛ようぼくの正しい歩み方あります。めへくむねのうちにやりしいかりと しんちつをだせすぐにみへるで

年末年始の行事

◆おぢば◆

別席 12月28日から元旦まで休み。2日から通常通り。

元旦祭 1月1日午前5時から本部神殿にて執行。

◆大教会◆

餅つきひのきしん

27日 午前9時

年末清掃・迎春準備

29日 午前10時

大祓式

31日 夕づとめ後

立教184年

元旦祭

1日 午前5時

教会長年頭連絡会

12日 午後1時30分

事情おはこび

(令和2年11月26日付)

本耕分教会

◎神殿増築及内部改造願

本心宮分教会(本心部属)

◎神殿建築願

〔鎮座祭〕令和3年5月8日  
〔奉仕祭〕令和3年5月9日

修養科一期講師

長江邦彦氏(本心)が、修養科第95期の一期講師を務めた。

教人登録者

(令和2年9月19日付)  
本正行 水野 和仁  
以上1名

第105回教人資格講習会

修了者  
(令和2年9月10日付)  
本正行 水野 和仁  
以上1名

本愛守分教会初代会長

松井コウ之霊の五十年祭  
本愛守分教会二代会長  
山神清子之霊の十年祭

本愛守分教会では10月18

日午前11時、初代会長・松井コウ之霊の五十年祭、並びに二代会長・山神清子之霊の十年祭が、同分教会で行われた。

本西部分教会初代会長

長尾吉太郎之霊の五十年祭  
本西部分教会では10月18日午前11時、初代会長・長尾吉太郎之霊の五十年祭が、同分教会で行われた。

出口道男氏(大教会理事)

本名分教会四代会長  
9月26日に直された。

享年82歳。告別式は9月28日午後1時より、大教会長を齋主として同分教会で行われた。

氏は大教会理事、会長室長、詰所主任などを務めた。

お詫びと訂正

11月号4頁「12月の初席者」は「9月の初席者」の誤りでした。お詫びして訂正いたします。

広報部

大教会日誌

令和2年10月25日~令和2年11月24日

10月

25日 女子青年例会

26日 本部秋季大祭

29日 こはる会例会

31日 常任役員会議◇役員会議

11月

1日 入社祭

祭主・大教会長 扨者・吉田正信、松浦道太郎  
指図方・佐藤幸夫 賛者・津田豊郎、吉田清和

◇おたすけ講話—山神茂彦

◇教会長連絡会

2日 よふき会例会

おつとめ・十二下りてをどり・連絡会

12日 常任役員会議

13日 月次祭

祭主・大教会長 扨者・大倉八郎、杉村善男

指図方・板山公司 賛者・佐藤幸一郎、久保眞樹

◇祭典講話—安藤吉人

◇大教会長挨拶

14日 布教実修所◇おはなし会

16日 むつみ会例会

17日 こども食堂MOGU (参加者56人)

19日 こはる会例会◇ほんあいO K E I K O

20日 婦人会例会

20日・21日 青年会例会(日帰りひのきしん隊)

22日 こかん様に続く会